



TITLE:

# 京都大学文献複写相互利用制度の 発足について

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学文献複写相互利用制度の発足について. 静脩 1985, 22(1): 3-3

ISSUE DATE:

1985-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36944>

RIGHT:

「大方聞きにくく見苦しきことは、老人の若き人  
に交りて、興あらんと物言いるたる」。

## 京都大学文献複写相互利用制度の発足について

昭和60年9月9日（月）より、附属図書館及び  
部局図書館（室）の文献複写相互利用制度が発足  
しました。

この制度は、従来自然系4学部2研究所で行わ  
れていた複写による文献の相互利用を全学的に拡  
大し、利用者へ便宜を図るために附属図書館及び  
部局図書室の関係者を中心に協議を重ねてきたも  
のです。

利用者が所属する部局に所蔵されていない文献  
のコピーを希望する場合、この制度により所蔵部  
局から資料を持出さずに複写が出来ますので、利  
用者は1往復ですむことになります。このほか、  
この制度の要点は下記のとおりです。

1. この制度は校費による利用に限られる。
2. 部局図書室単位で、この制度に文献複写の  
依頼館及び受付館、あるいはそのいずれか  
として参加する。校費の支払等に用いる予

算口座を同時に登録する。

3. 利用希望者は所属する部局又は学科の図書  
室から利用書の発行をうける。
4. 複写は利用者自身の責任の下に行う。
5. 経費は附属図書館で講座等予算使用上の口  
座単位で集計を行って各部局に通知し、年  
1回経理部で部局間の予算振替を行う。
6. 利用料金は部局ごとに設定する。
7. この校費移算のための複写データ処理等の  
事務は、附属図書館が行う。

注）附属図書館での利用は、上記の利用書記入  
による利用と、複写IDカード（部局から  
の申出に応じて発行）による利用と二通り  
の方法のいずれでも可能です。

詳細は、附属図書館閲覧課 相互協力掛（内線  
2638）又は部局図書室へお問合わせ下さい。

## 教養部図書館本年4月より開架室図書の借用手続きを 電算化—それを機に大幅にサービス改善

教養部図書館は附属図書館の協力をえて、本年  
4月8日から開架室の図書約32,000冊の借用・返  
却手続きを電子計算機で処理するようになりました。  
そしてこれを機に下記のように借用手続きと  
利用条件の一部を変更して、サービスの改善をは  
かりました。

借用手続きが非常に簡略化され、借用冊数、借  
用期間が大きくふえたので、全学の学生・教職員  
各位のせいぜいのご利用をお待ちしています。

### 記

#### 1. 借用手続き

- 〔1〕『京都大学附属図書館（・教養部図書館）  
利用証』（附属図書館と共通）で借用手続

きを行います。

- 〔2〕従来の『図書帯出券』制度は廃止しまし  
た。

#### 2. 借用冊数、借用期間

		借 用 冊 数		借用期間
		開架室図書	書庫内図書	
学 生	新	5冊以内	3冊以内	14日以内
	(旧)	(3冊以内)		(7日以内)
教職員	新	5冊以内	20冊以内	90日以内
	(旧)	(10冊以内)		(90日以内)

#### 3. 月例の図書出納事務休止日